

# 神奈川県中学入試概況

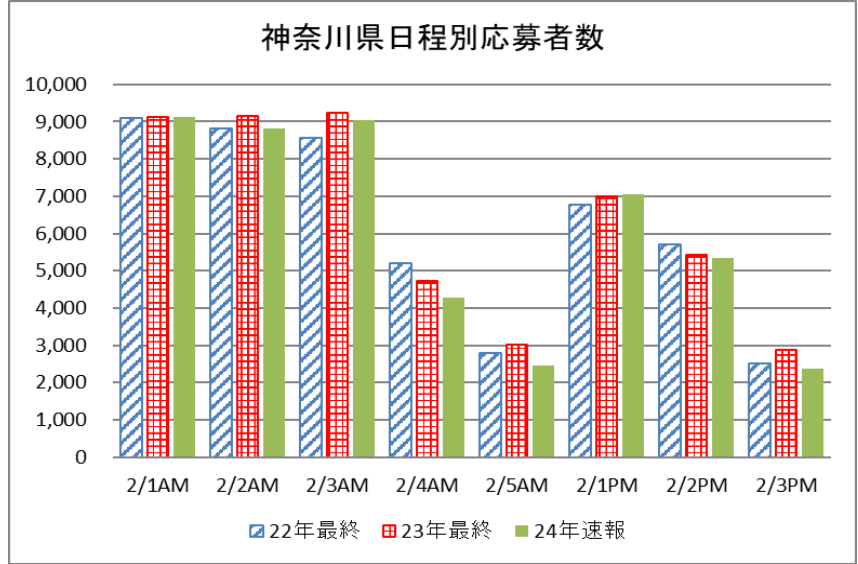
## 1. 概況 県内児童数の減少が響いて応募総数は減少、早じまいの受験生は多い

神奈川県内の公立小6児童数は義務教育学校を含んで約 73,500 名で、昨年より約 1,800 名減っています。2月28日現在の県内の中学入試の応募総数は、国立・私立・公立一貫校の合計では約 51,100 名で、昨年最終より約 1,600 名、率では 3%の減少です。入試結果が未公表の学校や神奈川県では各校合同のコロナ追試もありますから、最終的にもう少し上乘せられますが、児童数の減少もあって、昨年を上回ることにはなさそうです。

上のグラフは県内の中学受験の応募者数を日程別に合計し、一昨年、昨年と比較したものです。今年は速報値で、私立、国立、公立一貫校の合計ですが、県内で実施される地方校(日大系など)の入試結果は含んでいません。東京23区や多摩地区では2月1日午前の応募者数が最多ですが、神奈川県では2月1日午前、2日午前、3日午前の応募者数は大きな差はありません。

1日午前は昨年と同じ約 9,100 名、2日午前は昨年より約 300 名減った約 8,800 名、3日午前は昨年より約 200 名減った約 9,000 名です。1日午前が第一志望の受験生が多いため、東京23区や多摩地区では1日午前が最多になります。こうした事情は神奈川県もあまり変わらないのですが、男子のトップ校、栄光学園と聖光学院の1回が2日午前なので、2日午前の応募者が多くなる傾向があり、今年はさらに横浜雙葉が一般入試の2回化に踏み切って2日午前に入試を新設しましたから、2日午前の入試は昨年より応募者が増えると思われていました。その2日午前が約 300 名減、公立一貫校の適性検査がある3日午前も約 200 名減というのは、今年の受験生の特徴的な動きです。

また、例年の傾向ですが、4日午前や5日午前よりも1日午後、2日午後の方が応募者が多く、多くの受



験生は今年も3日午前までに入試を終了するケースが多くなっていて、今年の1日午後の応募者は約 7,100 名で昨年より若干増加、2日午後は約 5,300 名で約 100 名減っています。4日午前は約 4,300 名で昨年より 400 名以上減っていて、5日午前と3日午後はそれぞれ 2,400 名前後の応募者数で、こちらも昨年より 400 名以上減りました。

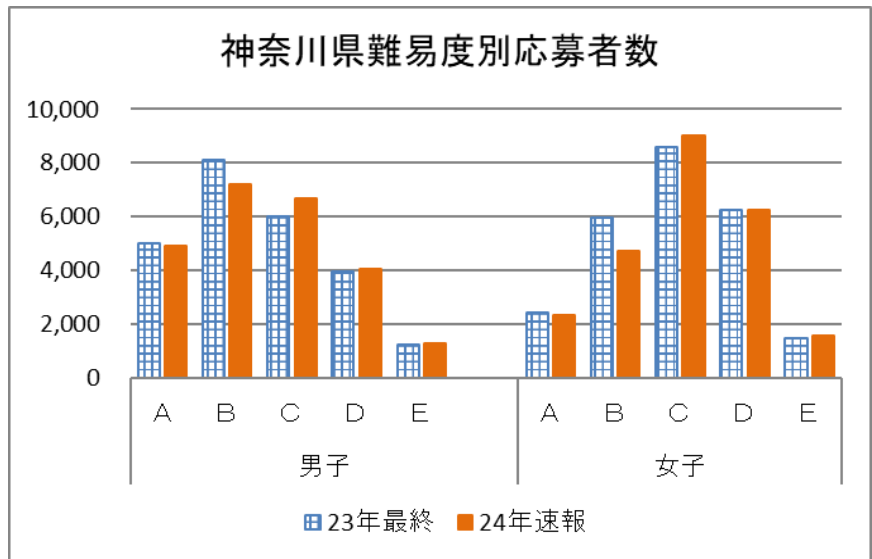
2日午前の応募者の減少は、難関校は別として、上位校までを狙っていかうとする受験生が、児童数の減少に伴って減っていることの表れでしょう。その割に1日午前や午後は昨年並みか、若干増えていますから、2日午後、3日午後、4日午前、5日午前の減少は早じまい傾向がさらに強まった、言い換えれば1日午前や午後に合格すれば、それで中学受験は終了、といった受験生が増えている結果と考えられます。公立中高一貫校がある3日午前の減少も、こうした早じまい傾向に加えて、高倍率校敬遠傾向が強くなった結果と考えた方が良さそうです。

次に、難易度別での応募状況を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA~Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想

難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子として合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。各グループの学校はグラフの下に示しています。

男子は今年もBグループが最多で約7,200名ですが、昨年より約900名減りました。次に多いCグループは約6,700名で、昨年より約700名増えています。BグループとCグループの間で移動した学校もありますが、安全志向の強まりも大きいようです。Aグループは約4,900名で約100名減、Dグループは約4,000名で約100名増、Eグループは最少の約1,300名で昨年並みですが、この3つのグループはあまり変わっていません。実際には、東京都内の学校との受験生の動きがありますから、県内だけで中学受験の動きをすべて説明できるわけではありませんが、大きな変化はなかったと考えてよいでしょう。

女子は最多がCグループの約9,000名で、昨年より約400名増えています。Bグループは約4,700名で、昨年より1,200名以上減っています。男子と同じ理由がありますが、先述の横浜雙葉の一般入試2回化で減少幅はもっと小さくなると見られていましたから、横浜雙葉の一般入試2回化よりも安全志向の強まりの影響の方が大きかったこととなります。BグループはD



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で神奈川県私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浅野・栄光学園・慶應湘南藤沢・慶應普通部・聖光学院・洗足学園・フェリス女学院
- B…青山学院横浜英和・鎌倉学園・神奈川大附属・サレジオ学院・逗子開成・中大附属横浜・法政大学第二・山手学院(特待)・横浜共立学園・横浜雙葉
- C…カリタス女子・鎌倉女学院・清泉女学院・日本女子大附属・関東学院・公文国際学園・湘南学園・湘南白百合学園・桐蔭学園・桐光学園・日本大学・日大藤沢・森村学園・山手学院(一般)・横浜国大附属横浜・横浜女学院(国際教養)
- D…神奈川学園・関東学院六浦・相模女子大学・自修館・聖セシリア女子・捜真女学校・鶴見大附属・東海大付属相模・藤嶺学園藤沢・聖園女学院・横須賀学院・横浜国大附属鎌倉・横浜女学院(アカデミー)・横浜創英
- E…アレセア湘南・大西学園・鎌倉女子大学・函嶺白百合・北鎌倉女子・聖ヨゼフ学園・聖和学院・相洋・武相・緑ヶ丘女子・横浜・横浜翠陵・横浜隼人・横浜富士見丘学園

グループより少なくなりました。そのDグループは約6,200名で昨年並み、Aグループは約2,300名で昨年より約100名減、最少のEグループは約1,600名で約100名増えています。男子と同様、東京都内との受験生の動きがありますから、それを踏まえてもAグループ、Dグループ、Eグループは大きな変化がなかったこととなります。

以下、各校の入試状況を地域別に見ていきます。

## 2. 川崎・横浜地区

### <男子校>

聖光学院は帰国と1回の応募者がやや減り、2回が増えています。経年変動の範囲でしょう。2回は実質倍率がやや上がっていますが、難度に変化はなさそうです。浅野は昨年とほぼ同数の応募者数で、若干合格者は絞ったものの、難度は昨年並みと思われます。慶應普通部も応募者は減りましたが、目立つほどではありません。例年補欠も出していますから、難度に変化はないでしょう。

サレジオ学院はA、Bとも応募者が少し増えていて、今年は人気が上がりました。難関校に挑戦するほどではないが、ぜひ上位校を、という受験生が同校を選んだようです。A、Bとも合格者を少し増やしていて、難度面は変わっていないようです。横浜と武相は今年も小規模な入試でした。なお横浜は今回の入試を最後に、中学校の募集を休止します。

### <女子校>

横浜女子御三家の1つ、横浜雙葉は長い間一般入試は1回だけ、しかもカトリック校で、プロテスタント校ではないのに、2月1日が日曜日の年(いわゆるサンデーショックの年)は、プロテスタント校のフェリス、横浜共立Aともども日程を2月1日から2日に動かしていました。「女子御三家は相争わず」というわけです。しかし、近年応募状況に陰りが出ていて、今年から一般入試を1日午前と2日午前の2回実施に変更しました。帰国も含む各回合計の応募者数集は大幅に増えて、昨年の2.5倍になっています。1日午前の1回は定員が減ったことから実質倍率は上昇、難化したでしょう。2日午前も実質2.5倍で、1回並みの難度だったようです。

フェリスはやや応募者が減りました。実質倍率もやや緩和していますが、入りやすくなるほどではありません。もともと3日午前にBを行って2回入試だった横浜共立は、特にBの応募者の増加が目立ちました。横浜雙葉の影響もあったようです。ただ、同校も併願受験生が増えているようで、合格最低点にはあまり変化がなかったことから、難度面は特に変わっていないようです。

他校も見えます。首都圏の女子校では応募総数で1位、2位を争う横浜女学院は、国際教養とアカデミー

の2コース制で、今年は応募総数が減っています。ただ、もともと複数回出願の関係で受験率はあまり高くなかったのが、応募総数減が難度にダイレクトに響くわけではありません。各回次の実質倍率も上下はあるものの、到達度で合否が決まる面が強く、難度変化はなさそうです。捜真女学校は、各回次合計の応募者数が昨年並みで、難度もあまり変わっていないようです。

神奈川学園は、各回次合計の応募総数が減っていて、後ろの日程になるほど減少が目立ちます。合格者数は各回次とも昨年並みか、やや多く出していますが、合格最低点は5日午前のCは上昇が目立っていて、他の回次も昨年並みです。応募者の減少は人気ではなく、難度から敬遠する受験生が増えて絞られたためだったようです。

川崎市では、洗足学園の各回次合計の応募者が減っています。実際の受験者数も少し減っていて、合格者数も同様です。合格最低点は1日午前の1回、2日午前の2回は昨年並みですから、少々受験生が減っても難度に変化は見られません。5日午前の3回は少し下がりましたが、もともと他の回次よりも高水準のため、少々下がっても入り易くはなっていません。カリタス女子は各回次合計の応募者が少し増えています。1日午前も増えましたが、中心は1日午後での他校併願受験生が中心です。1日午前合格者を絞っていますが、合格最低点はあまり変化がなく、他の回次も昨年並みですから、難度面はあまり変わっていないようです。

日本女子大附属は1日午前の1回が応募者やや減、3日午前の2回は減っています。合格者数は昨年並みですが、実質倍率は1・2回とも緩和しました。合格最低点はあまり変わらず、難度も昨年並みだったようですが、2025年度から1日午後に算数入試を行うと公表されていて、入試にテコ入れを図るようです。

### <男女校>

まず横浜市内から。公文国際学園は各回次合計の応募者数が増えていて、特に2月1日午前のAの男子、3日午前のBの女子が目立ちます。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、実質倍率はA・B、男女で上下のバラつきがありますから、難度面は昨年並みか、やや難化しているのかもしれませんが。山手学院は、各回次合計の応募者数がやや減っていますが、回次ごと、男女別に見ると増減いろいろあります。合

合格最低点は概ね昨年並みなので、難度面はあまり変わっていないようです。

桐蔭学園は各回次の男女とも応募者が増えて人気が上がっています。合格最低点は2月1日午前の1回午前は男女とも昨年並みですが、他の回次は上がっていて、特に2回のグローバル型の男女と3回の男子は上げ幅が目立っています。出題内容との関係はありますが、全体に難化したと考えた方が良いでしょう。神奈川大附属も各回次合計の応募者数が増えています。増加の中心は2月1日午後の1回、2日午前の2回の男子で、女子は各回次とも昨年並みかやや減っています。合格最低点は2回が上昇、出題内容次第ですが少し難化したようです。1回と4日午前の3回は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

中大附属横浜は2月1日午前の1回の女子の応募者が増えています。それ以外はやや減っています。ただ、1回の合格最低点は上がっていて、出題内容次第ですが、少し難化しているようです。2日午後の2回は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。青山学院横浜英和の各回次の応募者数は男女とも減っていて、特に第一志望が多い2月1日午前のAの減少が目立ちます。昨年応募者が大幅に増えて難化したことから敬遠されたのでしょう。合格最低点は2日午後のBは少し下がっています。出題内容次第ですが、少し入り易くなったかもしれません。Aと3日午後のCは昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

森村学園は、各回次合計の応募者数は昨年並みですが、2月1日午前の1回は男女とも増加、2日午前の2回と4日午前の3回は男子が減って、女子は概ね昨年並みでした。本稿執筆時点で合格最低点が未公表ですが、難度はあまり変わっていないようです。日吉の日本大学はグローバルリーダーズとアカデミックフロンティアの2コース制です。両コース各回次合計の応募者数は昨年並みですが、内訳を見ると男子は増加、女子は減っています。合格最低点は、帰国生入試は別として、一般入試は昨年とあまり変わらず、難度に変化はなさそうです。なお、マスコミでは日大の大学についていろいろと報じましたが、同校の人気には影響はなかったようです。

関東学院の各回次合計の応募者数は少し減っています。2月1日午後の1期Bは男女とも昨年並みですが、他の回次は女子が減少、男子は増加、減少い

ろいろです。難化傾向が続いていたためか、受験生の併願校の組み合わせが変わってきた影響でしょう。合格最低点は1日午前の1期Aが上がっていて、出題内容次第ですが少し難化したかもしれません。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。系列校の関東学院六浦は、各回次合計の応募者数が昨年並みですが、2月1日午後のA2回は増加が目立っていて、遅い日程は減少傾向です。他校併願の応募者が増えているものの入試早じまいの影響が見られます。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、あまり難度は変化していないようです。

人気が上がって難化が進んでいる横浜創英は、サイエンス、本科のコース制です。今年も各回次合計の応募者数が増えている、回次単位では算数1科をやめたため昨年並みの応募者数になっている回次もあるものの、高い人気が続いています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、実際の受験者数が増えても合格者数は昨年並みですから、難化は確実でしょう。コースの改編を計画中のようです。今後の公表が待たれます。横浜創英の系列校、横浜翠陵の各回次合計の応募者数は昨年並みです。昨年まで3年間増加が続いていたので一段落です。合格最低点も各回次とも昨年並みで、難度に変化は見られません。

鶴見大附属は難関進学と進学の2コース制です。両コース各回次合計の応募者数は増加していますが、女子はやや減っていて、男子の増加が中心です。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、実際の受験者数が少し増えて合格者数は絞っていますから、難関進学コースはやや難化かもしれません。進学コースはあまり変わっていないようです。横浜隼人は各回次合計の応募者数の増加が目立ちます。内訳では、女子は増えている回次だけでなく、応募者数の変化が目立たない回次もあるのに対して、男子はどの回次も増えていて、男子人気優勢です。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、実際の受験者数の増加に対応して合格者数も増えているので、各回次の難度はあまり変わっていないようです。

横浜富士見丘学園は女子校から男女募集に移行して6年目です。各回次合計の応募者数は少し増えています。回次・男女ごとに増減の傾向は違いますが、このところ隔年的に増減していて、今年は順番通り増えました。合格最低点は上下いろいろありますが、不合

格者が少ないので難度は昨年と変わっていないようです。女子校から共学化して4年目の聖ヨゼフ学園は小規模な入試の学校です。国際バカロレアのMYP(中学相当の教育プログラム)の実施校で、今年は各回次合計の応募者は増えていますが、その性格から今年も小規模な入試でした。また、橘学園は募集を休止しました。

公立中高一貫校の市立南は応募者の減少が目立ちます。東京などでも見られる現象で、入試早じまいや高倍率敬遠の影響でしょう。ただ、もともと高倍率ですから、入り易くなることはなかったようです。応募者が減っている公立中高一貫校が目立つ中で、サイエンスフロンティアは微減で、この程度なら昨年並みと言って差し支えありません。難度面も例年並みでしょう。国立の横浜国大横浜は応募者が少し減っていて、3年連続です。今年も小規模な入試の水準になりました。入試早じまいの受験生が増えている影響かもしれません。

次に川崎市です。法政大学第二は男子140名女子70名の募集定員を男女各105名に変更しました。男子にとっては厳しく、女子は喜ぶ変更ですが、各回次合計では男女とも応募者が減っています。男子は定員削減による敬遠ですが、女子には定員拡大が受験生に浸透しなかったのかもしれません。2月2日午前の1回は男子の合格最低点が少し上がって、難化傾向が見られましたが、女子は昨年並み、4日午前の2回は男子が昨年並み、女子は少し下がっていて、女子はその分入り易くなったようです。次年度以降、女子に定員拡大が浸透するか注目でしょう。

桐光学園は男女別学校です。2月3日午前の3回Bの男子の応募者が少し増えたものの、同日の3回A、1日午前の1回、2日午前の2回はいずれも男女とも減っています。合格最低点はバラつきがあり、1回の男子、2回の男女が上がり、それ以外は昨年並みです。出題内容との関係はありますが、1回の男子と2回は少し難化したとすると、応募者の減少は難化傾向から応募者が絞られた結果、ということになります。この辺りは改めて学校にお話を聞いてみたいところです。

公立中高一貫校の市立川崎は応募者が減っています。横浜の市立南や都内の公立中高一貫校などと同様、入試早じまいや安全志向による高倍率敬遠の影響でしょう。ただ、もともと高倍率でしたから、入り易くなることはなかったようです。

なお、大西学園は本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

### 3. 横須賀方面・湘南方面

#### <男子校>

栄光学園は、今年も応募者が減っていて、実質倍率も少し緩和していますが、合格最低点はあまり変わっておらず、例年並みの高難度の選抜だったようです。鎌倉学園は、今年も帰国生入試を別枠で新設しました。実質倍率4倍の厳しい入試でした。各回次合計では昨年並みの応募者数ですが、1日午前の1次が大きく増えて、午後の算数選抜は減っています。2次、3次は昨年並みです。1次は実質倍率が上がりましたが、合格最低点は昨年並みで、同校第一志望の挑戦受験生が増えた結果でした。算数入試は実質倍率が緩和したものの合格最低点は上昇、出題内容次第ですが、少なくとも難度が緩和したわけではなかったようです。2次と3次も合格最低点は昨年並みで、難度に変化は見られません。

逗子開成は、各回次とも応募者がやや減ったものの、経年の変動の範囲内でしょう。1日午前の1次は昨年並みの合格最低点ですが、3日午前の2次、5日午前の3次は少し下がっています。出題内容との関係はありますが、実質倍率は目立つほどの変化ではないので、昨年並みの難度と考えた方が良いでしょう。藤嶺学園藤沢の各回次合計の応募者数が少し減っていて、1日午後の入試が減少の中心です。他校併願受験生の動きが少し変わったようです。合格最低点にはあまり変化はなく、難度面は昨年並みだったようです。

#### <女子校>

湘南白百合学園は、2月1日午後の国語と算数の1教科入試を、時間帯をずらして併願できるように変更しました。これが功を奏して、1日午後の算数の応募者数は増えています。他の回次は昨年とあまり変わりません。本稿執筆段階では合格最低点が未公表ですが、難度面はあまり変わっていないようです。鎌倉女学院は11月に帰国生入試を別枠で新設しました。2月2日午前の1次は応募者が少し減っていて、3日午前の2時は少し増えています。以前は神奈川女子御三家の定番の併願校でしたが、受験生の動きが変わってきたようで、特に横浜雙葉の2日の入試は影響を被ったよう

です。2次は昨年並みの合格最低点で、難度に変化はなさそうですが、1次は下がっていて、少し入り易くなったようです。

清泉女学院の各回次合計の応募者数は少し減りました。入試日程・科目を一部変更しているため、厳密な比較はできませんが、遅い日程が少し減っています。ただ、2日午後は合格最低点が上がっていて、受験生の学力層が高学力にシフトしての応募者減だったようです。2日午後は少し難化したでしょう。他の回次も昨年並みの難度だったようです。聖園女学院の各科次合計の応募者数は増加しました。昨年まで隔年で増減していて、今年は減る順番のところ増えたのは、入試科目の変更などで受験しやすくなったためでしょう。合格最低点は1日午後が下がったり、2日午前が上がったりと、バラツキがありますが、総じて昨年並みの難度だったようです。

鎌倉女子大は国際教養とプロGRESSの2コース制で、各回次両コース合計の応募者数は昨年並みです。合格最低点は未公表ですが、実質倍率はあまり高くないので難度に変化はなさそうです。2026年度からの共学化を発表していますが、今年の入試には影響がなかったようです。北鎌倉女子は先進と音楽の2コース制で、2科や4科だけでなく多彩な入試を行っています。一時期は人気低迷しましたが、教育内容の改革が浸透するにつれて応募者は増加、各回次合計の応募者数では、今年は小規模な入試を脱しました。難度に変化はなさそうです。

やはり多彩な入試の聖和学院は小規模な入試の学校で、今年は各回次合計の応募者が少し増えましたが、今年も小規模でした。緑ヶ丘女子も小規模な入試です。今回を最後に中学募集を休止する予定です。

#### <男女校>

慶應湘南藤沢は男子の応募者が増加、女子は昨年並みです。1次合格者に2次試験を実施する2段階選抜で、補欠も出していて、もともと高難度ですから、難度はあまり変わっていないようです。日大藤沢は、各回次とも応募者が減っています。昨年まで増加が続いた反動でしょう、本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、やや入り易くなったかどうか、と言ったところでしょう。なお、日吉の日本大学と同様、マスコミで報道された大学の問題は、中学入試にはあ

まり影響しなかったようです。

湘南学園は、2月3日午前のC、5日午前のDの応募者の減少が目立っていて、各回次合計も減っています。入試早じまいの影響が強いようです。合格最低点は応募者が減ったCと1日午前のAは昨年並みで、難度にも変化はなさそうですが、減少が小幅だった2日午前のBと最終回のDは少し下がっていて、出題難度との関係はありますが、やや入り易くなったのかもしれない。

横須賀学院の各回次合計の応募者数は少し減っていますが、各回次とも女子が減っています。他校に流れているのかもしれない。合格最低点は2月1日午前の適性検査型と午後の1次B、2日午後の2次の上昇が目立ちます。応募者は減りましたが、受験生の学力水準が上がってやや難化しているのかもしれない。1日午前の1次Aと3日午後の3次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。アレセア湘南は適性検査型入試の新設で注目されましたが、今年も小規模な入試でした。

公立中高一貫校の平塚中等は応募者が少し減っています。横浜市内などの公立中高一貫校では、高倍率を避ける動きで応募者が減っていますが、この地域ではそうした動きよりも、地域の児童数の減少が応募者数に反映したのでしょうか。もともと高倍率だったので、少々応募者が減っても入り易くなることはなかったようです。国立の横浜国大鎌倉は、本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

## 4. 県央～県西方面

### <女子校>

聖セシリア女子は各回次の国算受験生の応募者の増加が目立っていて、回次合計でも増加が目立っています。人気が上がったからですが、合格最低点はあまり変わっておらず、全体に難度には変化はなさそうです。相模女子大も各回次の2教科受験生の増加が目立っていて、合計でも増えています。同校と聖セシリアは併願受験生が多いため、どちらの人気上昇が中心なのかはともかく、人気が上がっているのは確かです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度には変化はなさそうです。

地域は離れますが函嶺白百合は今年も小規模な入試でした。



<男女校>

東海大相模の各回次合計の応募者数は少し減っていて、3日午前のB、4日午前のCの男子が減少の中心です。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、やや入り易くなったかもしれません。自修館は、各回次とも応募者数は昨年並みで、大きな変化はなく安定した人気です。同校も合格最低点は未公表ですが、難度はあまり変わっていないようです。公立中高一貫校の相模原中等は、応募者が少し減っています。横浜

市や川崎市の各校と同様、安全志向が強くなり、高倍率が敬遠されたのかもしれませんが、ただ、応募者が減っても入り易くなるほどではなかったようです。

地域は離れますが相洋も各回次合計の応募者数が増えています。小田原周辺でも確実に中学受験が拡大しています。合格最低点は一部上がっている回次も見られますが、不合格者数はあまり多くないので、各回次とも難度はあまり変わっていないと思われます。

MEMO